渡辺だいすけ 奔走記

県政報告

第17号
2024年4月
— 発行者 —
福井県議会議員
渡辺大輔
福井市新田塚1-70-31
TEL.0776-50-2083

3月16日に北陸新幹線福井開業を迎え、
4月からは新年度もスタートしました。
今、福井県は大きな飛躍のスタートを切ろうとしています。
良いスタートと持続的な成長を続けられるよう、
そして未来を担う子ども達のために、私も頑張ってまいります!

調査項目　活動報告

★校内サポートルーム50校に拡充！

教育の大きな課題となっている不登校。私は、今の学校教育の制度の中では、通常学級という枠に入りきれない児童・生徒は一定数存在するという前提で、この問題をとらえなければと思っています。そして、そうした児童・生徒も安心して自分らしく学ぶことができる「居場所」を設けるべきだと考えていました。現在、不登校の子ども達のために、県内には教育支援センター（適応教室など）、フリースクールなどがありますが、決して十分ではありません。

私は、自分たちが通える校区内の学校にも、そうした居場所となり得る「教室」の必要性を議会でも取り上げてきました。その結果、昨年度は県内では5校の「校内サポートルーム」が設置され、さらに今年度、県内50校の小・中学校に拡充されました。この教室の特長は、常に個々の子ども達に支援をしてくれる職員が配置されること、そして一日の行動（学習）計画を子ども達自身で決めることができること、子ども達が安心して通える教室レイアウトも可能ということです。

もちろん、自分が望めば在籍する親学級で授業を受けることもできます。県教委によれば、この教室を設けたことで登校を渋っていた児童・生徒の数が減ったというデータも得られています。今後も「校内サポートルーム」の制度を中心に、不登校問題にしっかり取り組んでいきます。

校内サポートルーム（イメージ）

★令和5年度の非正規公務員（会計年度任用職員）の給与について

地方公務員の給与は、労働組合などの交渉を経て決まるものではなく、毎年人事院（自治体においては人事委員会）が、その年度の民間会社の給与を調査し、その動向に合わせ翌年の公務員の給与の改定をします。民間給与が上がれば、その分翌年の公務員の給与も上がり、民間が下がればそれに準じるということです。

令和5年度の地方公務員の給与は、民間給与より平均で0.88%（3,149円）少なく、

次ページへ

前ページより

ボーナスでは0.08か月分少ないという結果が出ました。そこで、福井県では、10月に行われた人事委員会からの勧告に従い、地方公務員の給与を引き上げることが決まりました。その際、**4月に遡って、引き上げた分の差額も12月の給与に上乗せして支払われます（4月遡及といいます）。**

ここで問題となったのが、非正規公務員（以下、会計年度任用職員）の給与です。この職員の給与も、正規の公務員と同じように人事委員会の勧告に従って引き上げられます。しかし、正規公務員では行われている4月遡及を、条例改正ができないことや事務作業の煩雑さなどから、非正規公務員には行わない市町があることが分かりました。4月から遡っての差額分は多い職員では10万円を超える額となります。しかも国からは4月からの差額分も財源として市町に交付されているのです。

私は議会において、会計年度任用職員に対し4月遡及を行わない市町には、県からもしっかりと遡及を行うように指導することを求めました。結果として、県からの指導により**県内7市において4月遡及が可能となり、残りの10町についても順次行うこと**となりました。

公務員は正規も非正規もなく、同じような業務をこなしている方も多くいます。特に学校では、そして子ども達にとっては、正規も非正規も関係なく同じ「先生」なのです。対応で差が生じるようなことがあってはなりません。

渡辺大輔議員（民主・みらい）　①不登校対策として県内小中計5校に設置されているサポートルームの拡充が必要②会計年度任用職員（非正規公務員）の給与引き上げについて、4月にさかのぼって改定する自治体の数は。

知事　①前向きに学習に取り組めるなど大きな効果が上がっていると聞いており、できるだけ拡充したい。

総務部長　②県内5市町がさかのぼって改定する方針。市町からはシステムや事務対応に時間がかかり、すぐ対応できないという声を聞く。適切に対処するよう助言する。

県議会での質問（福井新聞 2023.12.7）

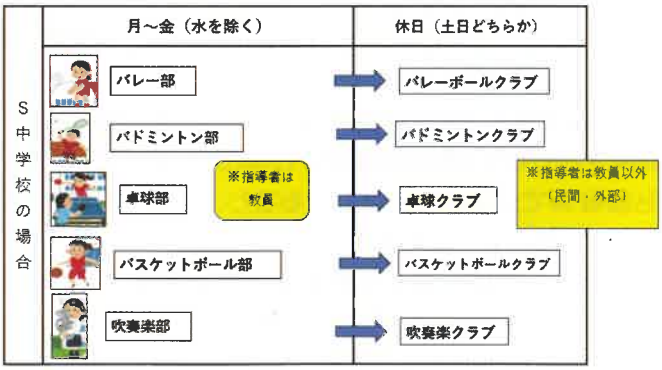
★どうなる！中学校部活動

国は中学校の部活動について、令和５年度から７年度までの間を「改革推進期間」とし、まずは土日の部活動を地域クラブなどに可能な限り早期に移行することを目指すように示しています。

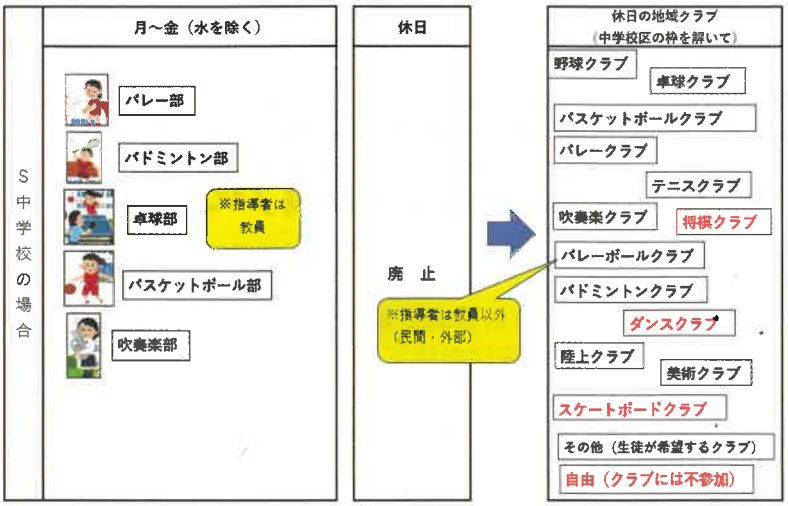
私は、保護者の方々に中学校部活動のことについて聞取りをしました。すると、休日の部活動に関しては、**右図パターンAのように、休日には指導者が教員から地域や民間の方に替わるだけで、原則は平日の部活動がそのまま残る**と思っている方がほとんどでした。しかし、実際には**パターンBのように、原則として休日は中学校による部活動はありません。替わりに、生徒がやりたい種目の地域クラブを選び、その練習会場まで行って活動をする**ことになります。

その地域クラブの活動が、平日

【中学校の休日部活動の地域移行　パターンA（例）】



【中学校の休日部活動の地域移行　パターンB（例）】



の部活動と同じ場所（中学校のグラウンドや体育館、吹奏楽部では音楽室）などで行われる場合もありますが、基本的には、全く別のクラブチームや指導者、練習会場で運営されていきます。また、教員が希望すれば、副業（兼職兼業）の申請をしたうえで、休日も地域クラブでの指導を行うことが可能となります。

仮に中学校の平日部活動がそのまま残っている場合、それに参加するか、休日は違う種目の活動をするかは、生徒の希望となります。また今後、将棋やダンス、スケートボード、茶道などなど、これまで中学校の部活動にはなかった種目が地域クラブとしてできたなら、そちらに参加することも可能となります。さらには、休日は活動に参加しないことも認められます。

いずれにしても中学生にとって休日は、自分のやりたい活動が行えるということになります。しかし、保護者の年会費負担や指導者の確保、練習会場までの移動、中学校部活動が果たしてきた教育的な側面の継続…など地域クラブへの移行には様々な課題もあります。

全ての生徒が意欲的に希望する活動に参加できるような制度になるよう、これからも粘り強く取り組んでいきます。

★北陸新幹線の開業効果を最大限に！

北陸新幹線金沢－敦賀開業を最大限、県内の活性化に結び付けるため、そして福井県の文化、歴史、自然、食、観光地、スポーツ・・・などを県民はもちろん、県外客にも知ってもらうためには、何と言ってもその地まで実際に行ってもらうこと、そして実際に見て、触れて、味わって、活動して、楽しんでもらうことが大切です。

私は昨年度、新幹線駅を降りた後の2次交通、特に地域鉄道（ハピライン、えち鉄、福鉄）や路線・観光バスなど、移動手段の人材確保も含めた数の充実と利便性を求めてきました。以下、取り組み状況をお知らせします。

ハピライン福井鉄道

◎利用者増につながる新駅設置の早期完成を要望。福井ー森田間の新駅については令和6年度に駅舎の基本設計予算が盛り込まれました。通常であれば、基本設計から4年程度で新駅が完成しますが、それと同時に新駅を横断する市道の整備もあり、今のところ完成時期は未定です。早期の完成を目指します。

えち鉄、福鉄

◎特に都市圏からの観光客の利便性向上のため、交通系ICカードが使えるよう要望。有人駅と無人駅の両方に対応できるシステム設置が難しく、新幹線開業には間に合いませんでしたが、令和6年度中のできるだけ早期に設置の見通しです。

バス

◎担い手が不足している路線バス運転手の増員を要望。
バス運転手の賃金アップや大型二種免許取得への財政支援を行うなどで、運転手増につながりました。
◎特に都市圏からの観光客の利便性を高めるため、路線バスの交通系ICカード決済システム搭載を要望。今年2月に県内路線バス全車に搭載されました。

フリートーク

今年3月2日に行われた桐朋高校の卒業式で読まれた「ブラジルの1匹の蝶の羽ばたきは、」から始まる答辞は、読む人、聞く人の心を打ちます。私自身も、この答辞から多くの事を学び、そして考えさせられました。しかも、答辞本文の中に卒業生293名全員の氏名から1文字ずつ取って組み込むという離れ業にも挑戦しています。テーマは「風」。その中で、これまで彼らを悩ませてきたコロナについては次のように読まれています。

「…。振り返ると78期は常に風と共に歩んできました。2019年4月1日、『平成』に替わる新元号『令和』の発表。出典の万葉集に曰く、『初春にして、気淑く風和らぎ…』しかし、令和最初に吹いた『風』は通常の『風邪』を遥かに凌駕した未知の感染症でした。『期末試験は中止です。』最後の登校日、担任の先生が複雑な表情でそう告げた時、歓喜の声を上げた僕たちのそばで、一人下を向いていた友人が流した悔し涙が、コロナの残酷さを如実に物語っていました。憎たらしいほどの青空の下で、僕たちの修学旅行は、部活の試合は、そして何よりマスクの下に見るはずだった皆の笑顔は、全て『不要不急』の4文字に淘汰されていき、その鬱憤を誰のせいにもできない葛藤の毎日が続きました。…」

コロナ禍でも、明るく元気に学校生活を過ごしてきたように見えて、実は多くの葛藤を感じながらの日々であったことが、この文から伝わってきます。しかし、そんな経験をしてきた彼らだからこそ「… 青臭いかもしれないが、コロナ禍を越えた学年として、… 逆風を味わうことができるのは、前に進む者だけだ!」という言葉が出てくるのでしょう。

また政治に関しては、次のように触れています。

「ある日、生徒会の意見箱に右翼や左翼といった言葉を使って特定の政治思想を中傷するものが投書されていたことがありました。どう返信しようかと悩み、そのまま机に置いて帰った次の日、誰の字とは分かりませんが、しかしはっきりと次のようなことが書かれていました。『片方の翼だけでは、鳥は空を飛べません。』僕たちが大鵬（※中国に伝わる伝説の鳥）ならば、両方の翼を自由に使いこなせる大鵬でありたい。…」

とても考えさせられる言葉でした。少なくともこの生徒は政治に対し、真摯に臨もうとしています。

今の政治は果たして、こうした生徒達が願うようなものとなっているのでしょうか？ 上記の文は、正解のない政治的な課題に向き合う時、巨大な片方の集団の意見だけで物事が決められてしまうことに対する警鐘のようにも思えます。仮に福井県議会が大空を舞う鳥（大鵬）だとしたら、決して片方の翼だけで飛ぶことの無いよう、様々な県民の声を真摯に聞きながら、立場の違う者同士で議論を重ね、正しい方向に飛び続けていく、そんな議会であり続けなければならないと強く思いました。

素晴らしくも感動的な答辞に、襟を正す思いがしました。

★福井県議会　令和6年2月定例会
一般質問のYou Tube動画を是非ご覧ください！

お困り、お悩みなどありましたらぜひご相談を！

渡辺大輔事務所

〒910-0067 福井市新田塚1-70-31
TEL.0776-50-2083 FAX.0776-50-2086
E-mail d-wat571@outlook.jp
https://watanabe-daisuke.info/

Facebook用
オフィシャルサイト